

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	ユニット1 栗ちゃんの家		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	令和3年1月24日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173800350-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和3年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットは廊下で繋がれており日常的に行き来でき触れ合いの場が持て長い廊下を散歩する方がいます。夜間帯何かあれば一方に夜勤者協力二人で対応でき、医療との連携も強く緊急時の協力体制が整っているので新人職員でも安心して夜勤に付く事が出来ています。職員は常に理念を念頭に置き利用者様一人ひとりの声に耳を傾け利用者様の今を大切に、ゆったりとした生活を送って頂ける様日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、日高管内新ひだか町静内地区の市街地にある閑静な住宅地に位置し、平屋建て2ユニットのグループホームである。ユニットは対象的な配置で廊下で繋がっており、職員や利用者は相互に往来し交流している。当事業所の敷地には、法人内のデイサービス始め、支援ハウス、多目的ホール、地域包括サポートセンターがあり、法人内の「第1福祉村」を構成している。法人は、2000年の介護保険法施行時から日高管内第1号のグループホームを開設し、以降静内地区中心に「福祉村構想」を唱え、認知症高齢者グループホームやデイサービス、訪問介護、患者輸送事業、自主事業として、共同支援ハウスやケアハウス、シュートステイ、配食事業、有償ボランティア、相談業務など幅広い展開を行っており、町民からの信頼も厚い。コロナウイルス感染症対策で室内コーティングを実施するなど先進的な事業所でもあり、これからは「福祉村」の中核事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他に各ユニット事に独自の介護理念があり毎朝の申し送り時に唱和し共有、ミーティング等で振り返りを行っている	理念は法人とユニット毎にあり、事業所内に掲示し周知するよう努めている。職員は、毎朝の申し送りに唱和し、ミーティング等で振り返りを行い共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し町内の廃品回収や行事に参加したり中高生のインターンシップ、アルバイトの受入を行っている	例年は地域や町内の行事に参加したり、事業所主催の行事に地域の方が参加するなど相互に交流しているが、新型コロナウイルス感染症対策で今年度は交流行事を休止しているが、学生のインターンシップやアルバイトの受入れは行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや法人の避難訓練に自治会の方に参加して頂いてます多目的ホールを開放して地域の方に食事のボランティアをして頂いているまた軽トラックなどの無料貸し出しなど地域貢献している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行われ、地域包括、薬剤師、自治会役員、ご家族様に参加頂き意見交換と行いサービス向上に活かしている	例年は2ヶ月に1度、家族や地域の方などが参加して運営推進会議を定期的開催して情報交換や意見交換をしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策により中止としている。	今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、開催中止としているが、運営状況の報告を職員だけの書面会議として開催し、議事録を委員や家族に送付し、意見を聞く機会を設けることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括職員に運営推進会議に毎回参加して頂き状況報告や生活保護担当職員の来訪時に情報交換を行い協力関係を築いている	運営推進会議などで、地域包括支援センター担当者や生活保護担当者と定期的に情報交換や意見交換を行っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回の身体拘束禁止委員会では勉強会を実施し各事業所でのミーティング等で拘束委員会を中心に話し合う機会を設け身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会は、法人内に設置して年4回事例の検討会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症対策で内部研修以外は開催を中止していた。	法人内での身体拘束禁止委員会は休会しているので、事業所内で身体拘束禁止委員会を設置し開催して、事例の検討を行い身体拘束をしないケアに取り組むことに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やミーティングでグレーゾーンや言葉遣いも含め理解を深め虐待に繋がらないケアの実践に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2020年度は研修自体出来ていないので日常生活自立支援事業、成年後見制度について学ぶ機会が持てていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には常に退去、経済面、当社の方針、苦情申し立て、身元引受について説明しご家族、利用者様からの疑問など聴くようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度のお便りで近況を知らせ訪問面会時意見、要望を聴くようにして、かつご家族を通じ利用者様からの要望、苦情を聴くようにしています	ホーム便りを毎月発行し、運営状況を家族に報告している。玄関に意見箱を設置しており、いつでも意見を聞く機会としている。コロナウイルス感染症対策で家族との面会は、玄関や窓越しの短時間での対応としている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例ミーティングにおいて、職員の意見や提案を把握し、すぐできる事と幹部会議と通して解決することを区別して反映させている、また社長も出席して会社の状況説明し意見交換している	ユニット会議は月1回定期的に開催し、幹部会議も定期的に開催し、職員の意見や提案を反映している。個人面談は、必要な時に代表者が行っている。	個人面談は代表者が随時行っているが、管理者による面談を年1回定期的に実施して、職員の人材育成に努めることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況把握の為各事業所に一か月食事参加、ミーティング参加などして頂き職場環境整備に意見を頂いている、職員不足による当直のお願いもして現場を良く見て頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場を見る機会が増えた、食事参加、当直参加、ミーティング参加などで管理者、職員の力量を把握している ケアを通じての課題をミーティングで研鑽している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	ナイトデイ、認知症カフェなどではできる環境になれば再開し職員の交流も以前のようにする予定		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人は何もわからずに入居されるので常に寄り添いながら本人の希望要望をさぐり安心に繋げています それが関係づくりにも貢献しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症カフェや法人の避難訓練に自治会の方に参加して頂いてます多目的ホールを開放して地域の方に食事のボランティアをして頂いているまた軽トラックなどの無料貸し出しなど地域貢献している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族、ご本人と面談を行い希望、要望、をお聞きし入居後も面会時等話す機会を増やし関係作りに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の後片付け洗濯物たたみ等入居者様と一緒にに行い一緒に暮らす家族のような関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで状況報告をし必要な時は電話で確認しています。ご家族の面会時等に相談させて頂き共に支えていく関係を築いております		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの深いものを置き来訪されたご家族友人知人とは居室又はホールですぐして頂いているまた馴染みの美容室などを利用したり、一時外泊など支援している	コロナウイルス感染症対策で、友人や知人の面会は制限しているが、家族との一時外泊は支援している。また、馴染みの床屋や美容室の利用も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話はスタッフが中継ぎをし円滑にいくよう支援し、誕生会、娯楽などに皆様で参加して頂けるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナの影響でほとんど行えなかったがホーム内でのイベントなどを電話連絡でお伝えし来訪して頂けるよう交流に努めてる		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の特徴や、会話などから本人の希望要望を把握し出来るだけ本意に沿って支援し困難な時は本人本位(人としての基本的な在り方)の立場で検討している	日常生活の中から本人の意思確認を行っている。困難な利用者は本人本位に検討して対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族ご本人ケアマネ相談員より伺った基本状況を職場内で共有しその人らしい生活が送れるよう居室の工夫で外出の支援などさせて頂いています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜間の様子を記録し職員内の申し送りやミーティングで話し合い一人ひとりの生活のリズムを把握し生活しやすいよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの担当者を決めご本人やご家族の意向に沿ってミーティングカンファレンスを職員内で共有し話し合い、4ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画を作成している	利用者毎の担当者が本人や家族の意見や要望を把握し、医師や看護師の意見もまとめてカンファレンスで検討し、計画作成担当者が集約し利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、見直しは4ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事と水分量バイタル排泄の状況日中や夜間の様子を記入しミーティングの際に気づいた点などを話し合い見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の実施や車での外出またご本人やご家族の希望に応じてご家族と一緒に外出されたりご家族のお宅へお連れ指定という対応を行っています地域の活動への参加を望まれる方にも対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お誕生日の際にボランティアの来訪にてハーモニカ演奏や民謡などで楽しむ事が出来るように支援させて頂いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望をお聞きして上で協力医療機関による月2回の往診訪問看護皮膚科は週一回の往診専門医の受診には職員が同行して支援している。	専門医等のかかりつけ医は、職員が同行して受診支援している。協力医療機関の往診はユニット毎に月2回で、訪問看護も月2回による24時間体制の適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お誕生日の際にボランティアの来訪にてハーモニカ演奏や民謡などで楽しむ事が出来るように支援させて頂いている受診には職員が同行し受診を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時暮らしの情報の提出、また病院からの情報、様子を職員間で共有し退院に備えホームでの「介護方法などを確認している 退院に関しては(ここまでになったら)と病院と確認しあっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期はご家族、係りつけ医、介護職員の相談のうえご家族の意向を優先し支援しています また看取り介護計画書にサインを頂きそれをもとに職員一同支援している	重度化や終末期についての対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医による説明の上、意向を確認し看取り介護計画書に署名後、主治医の下、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し研修、講習を行い年に一回救急救命講習をすべての職員が受講している 昨年はコロナ禍により中止		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の協力を仰ぎ年2回の避難訓練実施し当日備蓄品でお昼を作り使用し、また備蓄しておく。町内会では防災用品の備蓄をしているので活用する	例年は、避難訓練は地域の方の参加協力で年2回定期的に実施しているが、今年度はコロナウイルス感染症対策で、機器の点検のみで避難訓練までは行っていない。	コロナウイルス感染症の状況をみて、避難訓練の実施と備蓄の整備を進めて災害対策を地域の協力で行う事を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性の方、長年ホームに慣れ親しんだ方にはご本人の了解を得。下の名前で呼んだり居室へはノックや声掛けで入室する。傷つけない言葉かけと一つ一つの動作に感謝の「ありがとう」を添えている	人格の尊重とプライバシーについては、法人内で接遇の研修会を定期的に行っており、事業所内でも振り返りで確認しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で動けるような声掛け誘いをしている。基本手に説明、同意を心掛けて接している。思いや希望は間接的に聞くことで判断している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	誕生会など本人、ご家族の希望で決めたり、入浴も聞きながら入って頂く。自分のペースを崩さない人、週間を崩さない人などに合わせ支援している。テレビ、麻雀など娯楽や運動などその気になるまで待ち支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様専用のヘアブラシ用意し、口腔衛生面寺鏡ご覧になりながら髪をとかして頂く。男性は個々に電動カミソリ使用して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員交代で旬の食材を取り入れ料理している。ホームで採れた新鮮な野菜も提供している。嫌いな食材があるときは食材を変え提供している。誕生日では本人の好きな目メニューでお祝っている。	毎年栄養士に見てもらいながら、職員が交代で旬の食材で料理を担当している。利用者は下準備やお茶だしなど手伝っている。行事食は、出張寿司や天津飯・チャーハンなどの出前などで、食レクでは焼き肉や手巻き寿司、お好み焼きなど楽しみなメニューで支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	服飾は野菜を多くし個々に合せた量や型状に配慮し栄養バランスを考え提供している。水分制限のある方には一日の量を配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々能力に合わせ声掛け見守り状況に応じて介助を行っている。義歯は定期的に洗浄している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するよう努めている。仕草や表情を見ながら声掛け誘導、出来る事はして頂きチェックシートを職員間で共有し最終排泄時間を把握しながら排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者毎の排泄チェック表を確認し、職員間で共有し、一人ひとりの仕草や表情を見ながら、声掛け誘導しトイレでの自立した排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食事の工夫や定期的に乳製品、ヨーグルトの提供、歩行やマッサージなど自然排便を促す取組みをしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週二回を基本とし個々の希望時間好みのお湯の温度や湯に入っている時間など個々に合せ配慮している。本人の意思や体調を見ながら個々に沿った支援をしている	入浴は週2回で、利用者の状況に合わせて支援しており、本人の意思や体調を見ながら個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は個々の状況に応じてベッドの高さや角度を工夫しながら支援している。食後自室で過ごす人、今で過ごす人自由にして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と薬剤師が連携出来ており管理療養指導書により薬の目的、副作用等すぐ閲覧出来る様アセスメントシートに綴じ職員間で共有できている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり丸めや茶わん吹き洗濯ものたみなど日常的にお手伝い頂いている。春、夏、秋には花壇つくり野菜作りそして収穫をして頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため外出は控えています。利用者様の希望で定期的にご家族が床屋に連れて行ってもらってます。状況によって買い物に付き合ってます	例年では外出行事を定期的に行っているが、新型コロナウイルス感染症対策のため、団体での外出は自粛している。状況を見ながら、個別にドライブや買い物などで外出の支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が管理できない方は事務所で管理している。本人の希望で持ちたい場合はご家族に伝えある程度お持ちいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望が多いのでその都度かけて頂いたりして挙げている。手紙や年賀状などは希望を聴き対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂けるよう飾り物など都度変えています。廊下には見学できるよう行事のスナップ写真など飾っています。居間は食事とくつろげる場所に分け、ソファを配置して好みに移動できるようにしている。またタバコを吸う人のため場所を、何とか確保した	リビングと食堂は、採光や風通しもよく、高い位置に窓があり陽光が差し込んでくる。台所や食堂、リビングも広くゆったりしており、利用者は日中は殆どリビングで寛いで過ごしている。2つのユニットは廊下で繋がっており、相互に往來し交流ができる。壁には、行事の写真が掲示され、アットホームな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にテレビを囲んでソファを置き自由にくつろいで頂いている。また一人になりたいかつみんなの見えるところの席も用意している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファや馴染みの物、家族写真やカレンダーを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している	居室には、大きな収納とベット、棚が設置されている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台高さ歯ブラシ、ヘアーブラシ電機のひも、テーブル、椅子の高さなど個々の利用者様に合せている		